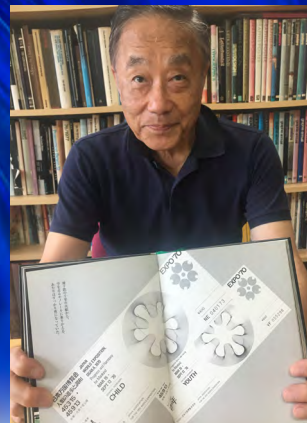


# サイエンスビジュアルとメディア・カルチャー サイエンスを伝えるデザインの草分け馬淵晃を偲び、 伝説の科学雑誌『イリューム』から考える

- 主催：あいちサイエンスフェスティバル市民サークル「KagaQ」、はこだて国際科学祭市民サークル「SSH 科学楽しみ隊」
- 共催：日本サイエンスコミュニケーション協会（JASC）
- 後援：サイエンス・サポート函館（はこだて国際科学祭）
- 協力：あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク（あいちサイエンスフェスティバル）

2021年 10月23日（土） 13:30-16:30

オンライン開催（申し込みした方に参加用 URL をお送りします）  
<https://kagaq20211023.peatix.com/> で参加受付



伝説の科学雑誌『イリューム』（東京電力刊）で創刊号から最終号まで一貫してアートディレクターを務めた馬淵晃氏が逝去されました。2008年に最終39号が出てから10年以上経ち、メディア環境も激変しています。サイエンスコミュニケーションという言葉が注目される前からサイエンスを伝えるデザインを進めていた馬淵氏の仕事を振り返り、サイエンスビジュアルの可能性とサイエンスメディアの存在意義を考えます。

## プログラム

あいちサイエンスフェスティバル起動への  
デザイナー馬淵晃の貢献

藤吉隆雄（あいちサイエンスフェスティバル初代総合コーディネーター、KagaQ 顧問）

デザイナー馬淵晃が科学雑誌『イリューム』で切り開いたもの

藤田 剛（エフフィールド代表、元・科学雑誌『イリューム』編集長）

雑誌『イリューム』で感じたこと

白川英樹（筑波大学名誉教授）

理科教育へ先端サイエンスを紹介した『イリューム』

～視覚障害のある生徒への科学記事の伝え方～

間々田和彦（王立ブノンペン大学教育学部客員講師、元・筑波大学附属視覚特別支援学校理科教員）

デザイナー馬淵晃の多彩なサイエンス仕事

～ポスター、展覧会、プロダクト～

岡田小枝子（総合地球環境学研究所 広報室准教授）

サイエンスビジュアルの現在

～メディカル分野を中心に～

明石道昭（唐津赤十字病院病理専門医、メディカルイラストレーター、日本メディカルイラストレーション学会設立時役員・現アドバイザー）

総括コメント

古澤輝由（立教大学 理学部 特任准教授、サイエンスコミュニケーション）